

# いまの歴史

新聞をななめ読み、  
週刊誌を読み飛ばし、  
倍速モードでニュースを見れば、  
よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

先生、やったこと、ありますか？ 私はあります。



## 【風俗】

コザカシ小娘とスケベ親父の猥褻犯罪、で、結局だまされたのはどっち？

猥褻犯罪といえば、元来男性に非があるものという固定観念がある。しかし、ブルセラだ、ブラクラだというマコギャルを中心とした最近の風俗の流行を見ると、こういった固定観念で猥褻犯罪を判断することは間違っているのではないだろうか。

例えば福岡で起こった小学校教頭の猥褻事件。「ツーショットダイヤル」という、今ではどこにもある電話サービスで知り合った女子中学生と、ホテルへ行ったのがバレて逮捕されたというマヌケたこの事件は、世論で「聖職にあるまじき行為」と非難された。

確かに未成年に猥褻行為を行うことは、法的にも罰せられるべきもの。しかし、それは倫理的問題を除けば、あくまでも女が未成年だからなのである。一般的な固定観念でいえば、何も知らない中学生がスケベな教師にだまされたとなるのだから、果たしてツーショットダイヤルに平気で電話する中学生が何も知らない乙女なのだろうか。

そしてこの事件の真相も、実は中学生のほうが小遣い欲しさで男に誘いをかけ、相手が教師だと知り、恐喝していたのがバレたという噂があるのだ。最近の猥褻犯罪の被害者は、未成年よりもマヌケな男のほうがかもしれない。

## 【現象】

男性にはアジアから女性にはアラスカから、  
配偶者は外からやってくる？

日本の農村が花嫁探しに四苦八苦し、タイやフィリピンのアジア諸国から「嫁」を輸入(?)していることは、ご存知の方も多しはず。この現象が国際貿易摩擦解消に一役買っているかどうかは知らないが、現在日本の男性が大和ナデシコを嫁にするのは、日本の人口比率からいっても、ある意味で大変なことらしい。

だが、そんな現状をさらに悪化させるような新たな現象がいま海外から押し寄せてきている。それがアラスカの独身男性のためのお見合い雑誌という異名を持つ「アラスカ・メン」誌が企画した「日本花嫁探しツアー」だ。

その内容は、この企画に賛同したごっつくってセクシーなアラスカ男が来日し、パーティーなどのグループ交際によって日本の女性と親交を深めながら特定の彼女を定め、東京ディズニーランドでデートをするというもの。

最近の日本の女性は洋モノに弱い傾向があるせいか、評判もなかなかのもので、この企画から近々国際カップル誕生ということも現実にあるらしい。こんなことが進行すると、近い将来大和ナデシコは絶滅し、皆ハーフヤクォーターになってしまおうが、まあこれも国際化の一貫か？

## 【流行】

ブラックライトで絵柄が浮き出す、  
最新タトゥー日本上陸。

ひと昔前までは「入れ墨」というと「唐獅子牡丹」などを代表にイカツイ裏稼業の名刺代わりであり、極道や不良の人の嗜好品(?)であった。だが「タトゥー」という横文字の言葉で呼ばれるようになったとたん、遊び人などがピアスと同じような感覚で「薔薇」などの洋柄を体に刻むなど、ファッションの一部として考えられるようになっていく。

このように入れ墨がお洒落なタトゥーとして流行している要素には、シール感覚で取り外し可能になったものができたこと、アイラインをはじめとした永遠の化粧や、アイラインをはくことがポイントなのだが、最近では科学的(?)なタトゥーがロンドンから上陸して、水面下でブームを呼んでいるらしい。

そのタトゥーとは、紫外線に反応する色素を使ったもので、太陽の下では何も見えないうろろシロモノ。だが、ティスコやラフなどにあるブラックライト(紫外線を含む特殊なライト)に当たると、絵柄が浮き出し輝くというモノ。

竜が火を吐くなど、普通の入れ墨と組み合わせて奇を衒った柄にするのがお洒落なのだそうだが、年老いたら、カバが反吐を吐いてるなんてこと……。



### 【政治】

#### 節操なしの連立与党に警鐘、 イタリア連立政権のていたらしく。

いまの日本の政治は開発格みの汚職事件に端を発し、自民党単独政権が没落、自民党中心の連立与党が政権を握っている。当初は「みんな仲良く国民のための政治をしよう」といった感もあったが、蓋を開けてみるとなんのことはない。自党従来の主義主張を覆してでもと、主導権の争奪合戦を繰り返して、国民の心など何処吹く風。だから最近巷では「連立よりも自民党が政権を握っているほうがよかった」という浅はかな意見まで飛び出すほど、不安定な世相は深刻化している。

こういった問題は、実は日本だけのものではない。イタリア政界でも同じような連立政権で殴り合いの内紛が起きているのだ。

それはベルルスコーニ首相が出した政令をめぐって、ベルルスコーニ率いるファルツァ・イタリアの議員と同じ連立与党の「北部同盟」の議員の言い争いから始まった。原因は、この政令が汚職事件の判事の権限を制限し、汚職容疑者を釈放するといったものだったから。これにより「首相に騙された」と宣言する内相も登場。始末で、結果的にこの政令は撤回されたものの、連立の亀裂は修正できない状態となった。何か現在の自・社連立与党崩壊を予測させる出来事のような気がする？

### 【宇宙】

#### 核など問題にならぬ木星激突の 彗星群。とりあえず地球へ は来ないでね。

北朝鮮の核問題以来、再び核爆弾の恐怖が世界中を震盪させているが、この核爆弾の10万倍の威力の大爆発が日本に、いや地球に起こったとしたら…。そんなことあるワケない」と簡単に言えない現象が宇宙では起こっている。

7月17日に起こった木星に21個の彗星が衝突したのがそれ。さまざまな報道では「今世紀最大の天体ショー」と気軽に楽しめるイベントの如く紹介されていたが、その内容は大爆発の観賞会にほかならない。

直径数千キロの水とチリの塊が、時速21万キロという途方もない速度で木星に次々に体当たり。その影響で木星の成層圏にはチリの燃えカスが漂っている天体望遠鏡で観測できるほど壮絶なものであったのだ。しかも、これは人類が初めて目にした太陽系における天体の衝突なのである。

木星に生物の存在が確認されていないため今回はお祭り気分が先行したが、その爆発の凄さは600万メガトン。地球上で行われた最大級の水爆実験の10万倍の威力なのだ。つまり、核爆弾より気まぐれ彗星のほうが非常に怖い。これから流星を見たら、まず「地球へ来ないで」とお願いするように！

### 【健康】

#### じゃあ、25%が×だというわけね。 「デブはビジネスマン失格」の実際。

アメリカ社会で「喫煙者とデブはビジネスマンとして失格」という説が囁かれて以来、日本社会もこの説に傾倒し、禁煙とダイエットを心掛ける輩が多くなった。その影響でオフィスはもとより、駅や公共施設に至るまで「禁煙」地域は日に日に増加し、喫煙者は肩身の狭い思いを募らせている。確かに喫煙は体に百害あって一理なし。愛煙家には非常に申し訳ないが、このことについては否定するパワーはない。

だがデブについては、一言いいたい。そもそも、アメリカでデブがいけないという理由は「体重管理ができない」とは自己管理不足に繋がる」ということらしいのだが、先日の米保険統計センターの発表によると、アメリカ人の4人に1人が「肥満」だというのだ。



フィットネスやダイエットをいくら日課にしても、ビジネスや生活環境の改善が図れないため、アメリカでは日増しにデブが増えているのである。つまり、「デブはビジネスマン失格」という方程式自体がアメリカで成り立っていないのである。

こういうビジネスもありますが、それでもこの人は太りすぎ。

**本格派西洋占いショップ**

- マダム セイラの神秘タロット占い
- マダム セイラの細密ホロスコープ占い
- コンピュータ占い各種
- 世界のタロットカード
- 占いと魔術の専門書籍
- パワーストーン

—小さな占い研究所—  
**ミステリーアート**

河原町三条下ルBALビル北側東入ル80m  
TEL075・256・4636 営業時間14:00~22:00



**JIGGER'S SON**

9.1 発売

ジガーズ・サン

●COCA-11923  
●¥3,000(税込)

コロンビアレコード